

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立泉尾北小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	大正区
学 校 名	大阪市立泉尾北小学校
学 校 長 名	岸上 智弘

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立泉尾北小学校では、第6学年 30名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立泉尾北小学校の結果概要

国語の平均正答率は60%で、大阪市平均(59%)を上回る一方、全国平均(60.9%)をわずかに下回っています。算数の平均正答率は56%で、大阪市平均(56%)と同等ですが、全国平均(56.4%)にはわずかに届いていません。平均無解答率が極めて低いことが本校の最大の強みです。国語は1.8%(全国3.4%)、算数はわずか0.3%(全国3.2%)に抑えられており、児童が最後まで諦めずに問題に臨む粘り強さが表れています。また、学校質問調査において、本校が「インクルーシブ教育の充実(通常の学級における指導の工夫や個に応じた手立て)」に「十分に行った」と回答していたこと、そして算数などで「つまづいた児童への手厚い対応」を行ってきたことは、児童の中に「誰一人見捨てられない」という絶対的な安心感と自己肯定感を育む土壌となっています。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】本校の国語は、領域によって強みと課題がはっきりと分かれています。

強み: 「C 読むこと」70.0%を記録し、大阪市平均(66.0%)および全国平均(65.9%)を大きく上回る極めて良好な結果となっています。文章を正確に読み解く力が身についていると言えます。また、「A 話すこと・聞くこと」(64.4%)や「B 書くこと」(45.0%)についても、大阪市平均を上回る健闘を見せています。

課題: 「(2) 情報の扱い方に関する事項」50.0%となっており、大阪市平均(53.2%)や全国平均(52.3%)を下回っています。目的に応じて情報を整理したり、適切に活用したりする指導の工夫が求められます。「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」も63.3%と、大阪市(62.5%)は上回るものの、全国平均(66.8%)には及んでいません。

【算数】算数は、特定の1領域を除いて、ほぼ全ての領域で全国を上回る素晴らしい結果となっています。

強み: 数と計算を除く広範な領域。「B 図形」(本校58.3%/全国55.3%)「C 測定」(本校80.0%/全国78.1%)「C 変化と関係」(本校44.4%/全国41.1%)「D データの活用」(本校49.2%/全国48.6%)これら4つの領域はいずれも、大阪市平均および全国平均を上回る成果を残しています。

課題: 「A 数と計算」一方で、最も問題数の多い「A 数と計算」(8問)が57.5%にとどまり、大阪市(61.2%)や全国平均(61.1%)を大きく下回っています。この領域の取りこぼしが、算数全体の平均を押し下げる要因となっています。基礎的な計算力の定着や、つまづきへの早期対応が今後のカギとなります。

質問調査より

令和8年度の全国学力・学習状況調査における、本校の児童質問調査(児童アンケート)の結果の特徴について分析します。児童質問調査の結果からは、本校の児童が極めて高い自己肯定感や幸福感(ウェルビーイング)を抱えていること、そして他者を思いやり、社会に貢献しようとする強い意欲を持っていることが明確に示されています。また、本校の児童は、自分自身の現在と未来に対して非常に前向きな捉え方をしています。高い幸福感(ウェルビーイング)(21)「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」。本校で「よくある」と回答した児童は66.7%に達し、大阪市平均(56.3%)や全国平均(54.7%)を10ポイント以上大きく上回っています。さらに「ときどきある(33.3%)」を合わせると、実に100%の児童が日常生活の中で幸福を感じていると回答しており、学校や家庭が児童にとって極めて安心できる温かい環境であることが伺えます。

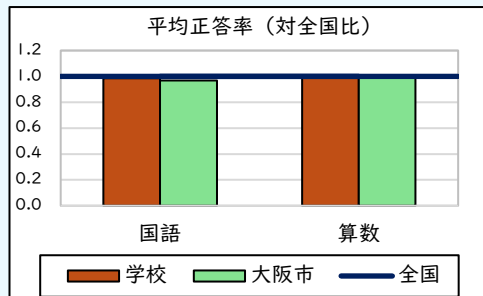
今後の取組(アクションプラン)

本校の児童の幸福感(66.7%)や他者貢献心(70.0%)の高さ、きめ細かな個別支援を強みに、学力課題を克服するプランです。第一に、算数は図形等の強みを活かしつつ、課題である「数と計算」(正答率57.5%)の基礎力を強化します。つまづき対応のノウハウを活かした個別学習や、家庭と連携した日々の計算習慣化を徹底します。第二に、国語は強みである「読むこと」(70.0%)の力を土台に、課題の「情報の扱い方」(50.0%)を改善します。他教科でも文章から必要な情報を図表に要約・整理する活動を日常化します。第三に、進んで人を助ける児童の豊かな特性を活かし、授業内にペアやグループによる「協働的な学び合い」を構造化します。互いに教え合うことで、つまづきを解消しながら自己肯定感と学力を高め合う、温かい集団づくりを推進します。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

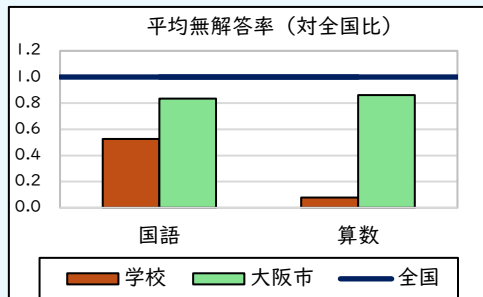
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	60	56
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



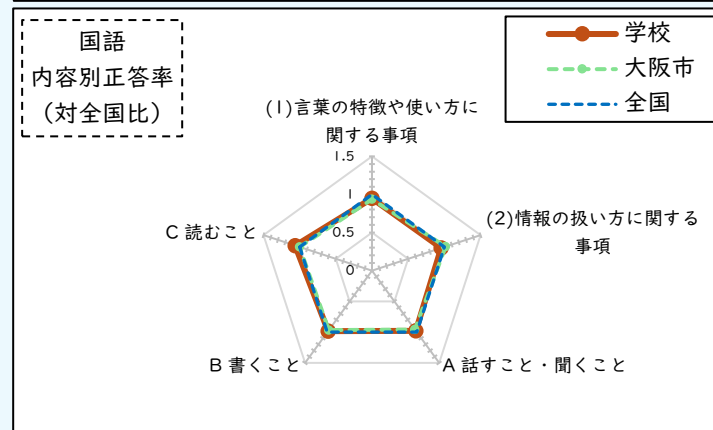
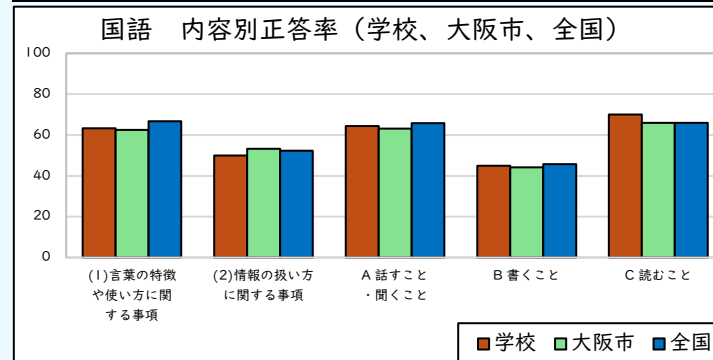
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.8	0.3
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



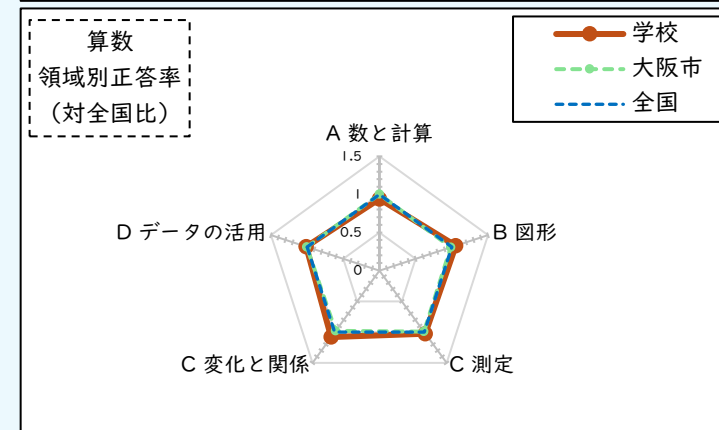
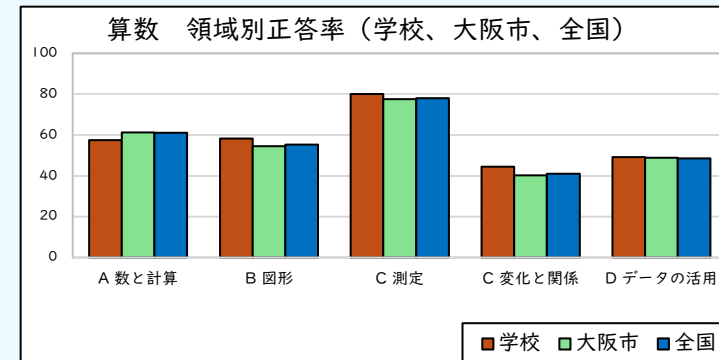
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	63.3	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	50.0	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	64.4	63.1	65.8
B 書くこと	2	45.0	44.2	45.7
C 読むこと	2	70.0	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の 領域	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	57.5	61.2	61.1
B 図形	4	58.3	54.5	55.3
C 測定	1	80.0	77.5	78.1
C 変化と関係	3	44.4	40.3	41.1
D データの活用	4	49.2	48.8	48.6



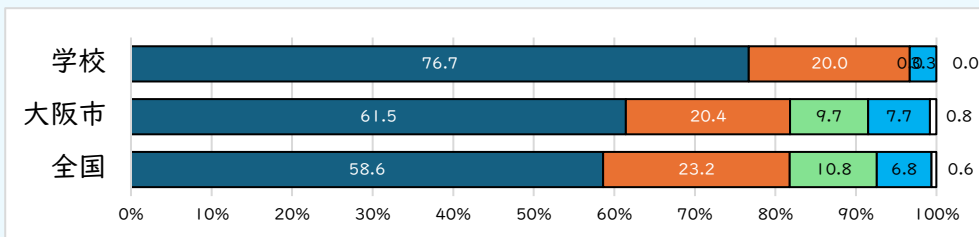
令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号 質問事項

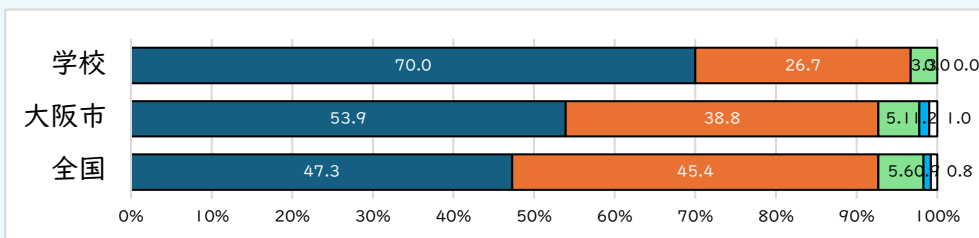
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



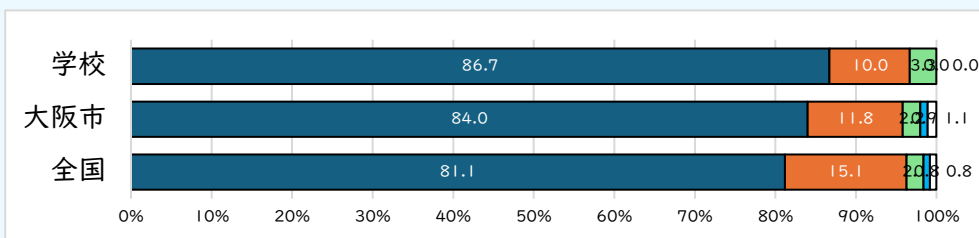
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(11) 人が困っているときは、進んで助けていますか



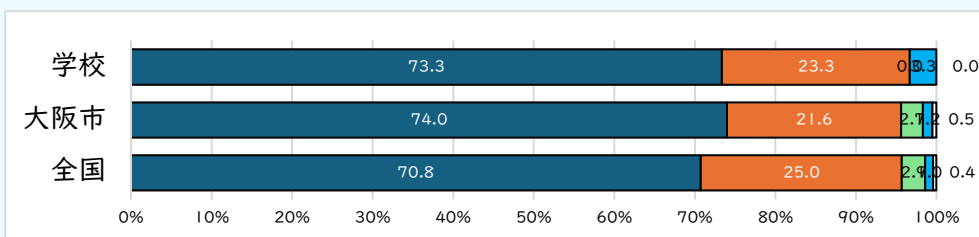
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



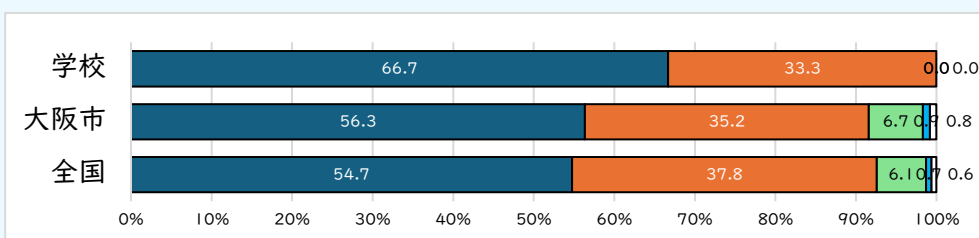
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(14) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(21) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



1 よくある
2 ときどきある
3 あまりない
4 全くない